

7月17日(土)、18日(日)、19日(月・祝)

JR品川駅前・ホテルパシフィック東京1階開催

2010年CCCFのご案内

主催 書信館出版(株)

平城遷都一三〇〇年に際し

今年が平城遷都一三〇〇年であると、テレビのコーマーシャルで知りました。和同開珎誕生一三〇〇年を祝ったばかりなので、待て待てとばかりに年表を開きました。

和同開珎が誕生したのは藤原京時代の和銅元年(七〇八)、平城京へ遷都したのは和銅三年(七一〇)、かくして二〇一〇年は平城遷都一三〇〇年ですが、言い変えると藤原京時代の和同開珎は二年ほどということになります。

平城京に遷都して五〇年を経た天平宝字四年(七六〇)に開基勝寶、大平元寶、萬年通寶発行の詔が出され、それから五年後の天平神護元年(七六五)に神功開寶が発行されます。

平城京から長岡京への遷都は、更にそれから一九年後の延暦三年(七八四)であり、平城京時代の皇朝銭は和同開珎、萬年通寶、神功開寶の三貨です。前号で「貨幣教室B」をCCFで開催とご報告しましたが、今年のテーマはやはり「平城の貨幣」で決

まりでしよう。

ところで、昨年(あるいは一昨年)、大学受験に際し西洋史を履修していない高校生がいると大騒ぎになりました。これにはびっくりでしたが、数日前、ラジオで日本史も似たような状況と聞き仰天しました。この件については、中学・高校の先生方によく伺ってみたいと思いますが、歴史教育の現状は、そういうことらしいので、「平城の貨幣」は古銭界からおおいに発信しなければならないと考えています。

『広辞苑』によれば奈良時代とは「平城京すなわち奈良に都した時代。元明、元正、聖武、孝謙、淳仁、称徳、光仁の七代七十余年間(七一〇～七八四)」とあります。

その前の時代の呼び方ですが、『広辞苑』で「飛鳥時代」を見ると、奈良盆地南部の飛鳥地方を都

とした推古朝前後の時代。もとは美術史の時代区分で、推古朝を中心に仏教渡来から平城遷都まで広く含めたが、今では政治史や文化史でも六世紀末から七世紀前半までとするのが普通」とあります。推古天皇の在位期間は五九二～六二八年、仏教の

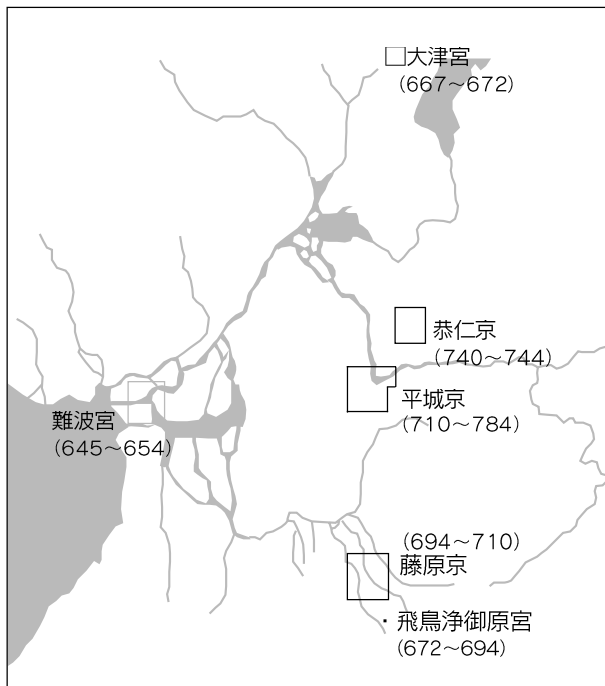


図1 飛鳥時代から奈良時代の都

月刊 収集 定価＝六三〇円（送料90円） 半年購読＝四〇〇〇円（送料共） 一年購読＝八〇〇〇円（送料共）

渡来は『日本書紀』によれば欽明天皇二年（五五二）です。

飛鳥浄御原宮、藤原京、平城京の位置や皇室の系譜を図1、2に掲げます。短期間ながら大津宮時代（六六七～六七二）、

難波宮時代（六四五～六五四）、恭仁京時代（七四〇～七四四）がはさまっているの
で、これも加えました。無文銀錢を天智天皇の下に記き入れたのは、「重用」したところを
解説下さい。
貨幣教室Bで平城京の三貨をどう紹介するのですが、一般的な歴史知識の問題としては、萬年通寶、神功開寶は
おるか和同開珎も知らないとい

う前提でかかる必要がありそうです。古銭界固有の問題としては分類方法です。最近の刊行書としては『和同開珎―発行千三百年記念泉譜』（音田俊幸氏）、『皇朝錢物語』（株式会社 銀座コイン）が

（不明） 敏達	（六五五～六六一） 齊明	（七一五～七二四） 元正
（不明） 用明	（六六八～六七七） 天智―無文銀錢	（七二四～七四九） 聖武
（不明） 崇峻	（六七二～六七七） 弘文	（七四九～七五八） 孝謙
（五九二～六二八） 推古	（六七三～六八六） 天武―富本錢	（七五八～七六四） 淳仁―萬年通寶
（六二九～六四二） 舒明	（六九〇～六九七） 持統	（七六四～七七〇） 称徳―神功開寶
（六四二～六四五） 皇極	（六九七～七〇七） 文武	（七〇七～七八一） 光仁
（六四五～六五四） 孝徳	（七〇七～七一五） 元明―和同開珎	（七八一～八〇六） 桓武

（カッコ内は在位）

図2 皇室の系譜と貨幣の関係

あり、また、鈴木秋男氏が「皇朝錢雜誌」を『貨幣』（日本貨幣協会）に連載しています。CCFの方針はもちろん「入門」です。

これは前号でも触れましたが、最近の新書判は興味津々、おおいに注目されます。理由の一つは、第一線の研究者が執筆していることですが、聞くところによると現在、新書判も学術研究の発表の場として認知されているのだそうです。嬉しいことに、日本貨幣の前史ともいべき無文銀錢と富本錢については、『飛鳥―水の王朝』（千田 稔、二〇〇一、中公新書）や『飛鳥―歴史と風土を歩く』（和田 萃、二〇〇三、岩波新書）が紹介しています。これからも興味深い発表が新書判を賑わすことは確実でしょう。知つてのとおり新書判は大衆書であり、持ち歩くのに便利なうえ、解りやすいのが特長です。書店でも良い場所を占めています。歴史問題に
関しては悲喜こもも来たるです。

◎2010CCF公開オークションへ出品下さい。

今年もCCFオークションを開催させて頂きます。ご出品頂いた品は『収集』7月号の別冊として、本誌をご購読の皆様全員に無料配布致します。前回同様、オールカラーの写真付でご紹介致します。出品規定は追って誌上でご案内致します。書信館出版(株)